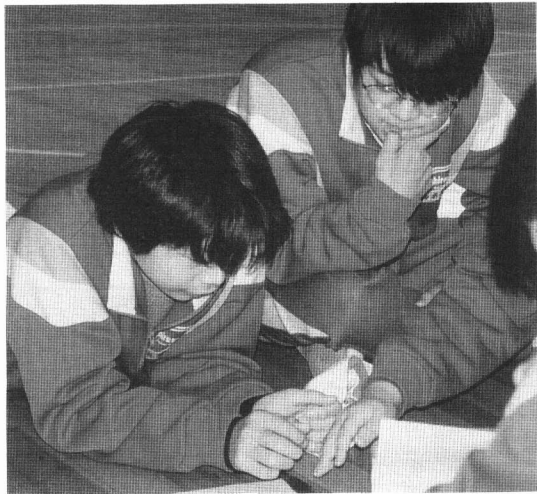


には自信が感じられた。夢中になって授業に取り組むA男の姿がみられた。



「授業を振り返る生徒たち」

○第4段階－感情を分かちあう

いつもチームの仲間が一番端にいてほとんど話をしないA男であったが、今回は、仲間と楽しそうにゲームを振り返っていた。「A男君はシュートを積極的に打っていたのが良かった。」というチームメートの話を嬉しそうに聞いていた。T教諭が「A男、ナイス、シュート！」と声をかけるとA男は、笑顔で応えていた。

3 授業実践の分析と考察

(1) A男の変容

【担任】

A男がチームに溶け込めるか心配だったが、バスケットボールの授業を通して、チームの仲間と一緒に楽しそうに活動している姿が見られるようになって安心した。また、一人で過ごしていた休み時間も、友達と一緒にいる場面が見られるようになってきた。

—【アンケート結果（事後）】—

クラスの雰囲気 —いい
 みんなと一緒にいると楽しい—まあまあ思う
 みんなと一緒にいると安心 —まあまあ思う
 感情を味わえる（授業） —まあまあ思う

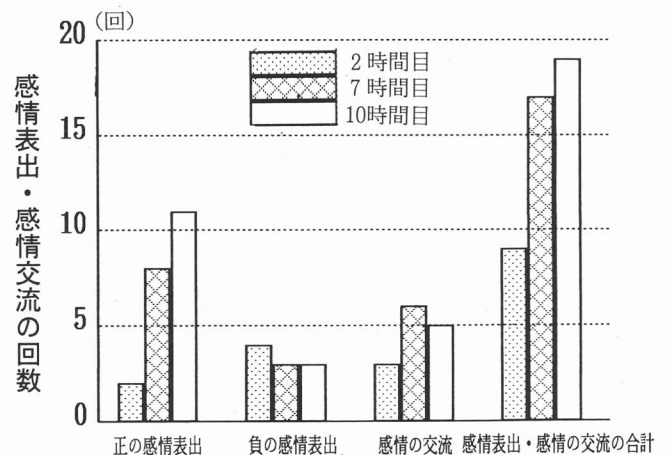
感情を交流しあえる（授業）—まあまあ思う
 気持ちが分かってもらえる —あまり思わない

網かけの部分が授業後変容がみられた項目である。授業に関する項目では、「感情を交流しあえる」に変容がみられる。また、クラスに関しては、「一緒にいると楽しい、安心できる」そして、クラスの雰囲気「いい」と回答している。授業での感情の交流の体験によって、A男のクラスの人間関係に対するイメージが変わった結果であると考えられる。

(2) A男の感情表出・感情の交流の分析

宇土正彦氏が開発したW・F・C観察法を基に「授業記録カード」(P150)を作成し、教師のかかわり・生徒の活動を記録した。この授業記録カードによって、A男の感情表出・感情の交流の分析と、教育相談の機能を生かした教師のかかわりの分析を行った。

【図4】 授業回数とA男の感情表出・感情の交流



A男の感情表出・感情の交流について、その頻度をグラフ化した【図4】。感情表出は正の感情表出（喜び、楽しさ、意欲等）と、負の感情表出（不安、悲しみ等）に分けた。正の感情表出、負の感情表出、感情の交流を合計した感情表出・感情の交流の合計は、授業が進むに従い増加している。これは、授業が進むに従い、生徒のところが解放され感情表出・感情の交流が促進された結果である。また、正の感情表出は授業が進むにつれ増加しているものの、負の感情表出と感情の交流はあまり変化がみられなかった。では、どのような学習場面で感情の表出・感情